

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24241079

研究課題名(和文) アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究

研究課題名(英文) Arab Revolution and Structural Change of Middle Eastern Politics

## 研究代表者

長澤 榮治 (NAGASAWA, Eiji)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00272493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,400,000円

研究成果の概要(和文)：2011年1月に始まるアラブ革命の各国ごとの多様な展開を、憲法改正などの政治改革に成功した事例から、軍事クーデターや運動弾圧による内戦の勃発とその長期化による大量の難民発生事例まで、実証的に検討し、その背景となるイスラーム運動など地域の基軸的な諸問題との関係を考察した。また、パレスチナ問題の展開や域内の非アラブ国や域外大国の介入など中東域内政治の構造変容についても分析を進めた。以上の研究の成果を社会に向けて公開・発信した。今後の研究発展の基盤整備のために、アラビア語など関連文献資料の収集を行い、政治動向の情報の系統的な収集・蓄積とアーカイブ化に向けた試作的なデータベースの作成も行った。

研究成果の概要(英文)：We conducted a series of case studies of socio-political changes caused by the Arab Revolutions since January 2011, by focusing on important issues such as political reform through the revision of constitution, repression of the popular movements and outbreak of civil war, the refugee problem, and others. The impact of the Arab Revolutions to the Palestinian Question and the structure of the Middle Eastern regional politics are also other important topics in this study. We collected research documents on the above mentioned issues and constructed a tentative data-base of Arab political news.

研究分野：地域研究

キーワード：アラブ 革命 イスラーム 民主化 社会運動

## 1. 研究開始当初の背景

2011年1月にチュニジアおよびエジプトの二か国で民衆蜂起によって長期独裁政権が相次いで崩壊したことは、周辺のアラブ諸国に大きな衝撃を与えた。アラブ革命とは、アラブ諸国における反体制の民衆運動と政権交替、体制改革の一連の過程全体の総称である。2011年の段階で、このアラブ革命がもたらす政治変動は、中東現代史において約六〇年前のアラブ民族革命の時期に匹敵する歴史的な意義を持つものと考えられた。また革命の展開過程は、この地域が抱えていたさまざまな政治社会経済問題の本質的な課題をより深く探求する機会を研究者に与えている。またこの変動過程は、パレスチナ問題の展開や中東地域システムの再編成に大きな影響を及ぼすことも予想された。これらの問題に対する社会的な関心の高さに応えて、情勢を的確に分析してその研究成果を広く公開することは、中東研究に取り組む地域研究者の責任であると考えた。また、そのために現地調査や専門家との情報交換とともに、革命の変動過程に関する一次資料や研究文献、政治情報の系統的な収集を行うことは将来における研究の基盤整備になると考えた。今回のアラブ革命の歴史的に持つ意義を具体的な過程の分析を通じて明らかにすることで、中東地域研究の方法論の再検討を行うことが可能であると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の研究開始当初の背景に関する問題意識から、アラブ革命の具体的な展開過程を実証的に分析し、その背景となる政治社会経済の諸問題（政治的イスラーム、民主化、経済改革、ジェンダー、社会労働問題など）について比較考察するとともに、域内の非アラブ国や欧米などの関与を含めて中東域内政治の構造変動（パ

レスチナ問題の新展開、中東地域システムの変容など）の全体を地域史的な視角から検討することにあつた。上記のアラブ革命の背景・展開過程・地域的影響などを総合的に分析することによって、この変動過程が中東現代史においてもつ歴史的な意味を考察し、中東に関する地域研究の方法論的な枠組の再検討のための基本的な視座を提供することを目指した。また、アラブ革命に関する同時代の文献資料や政治動向に関する情報を収集・蓄積し、今後の研究のための基盤整備を行うことも目的の一つであった。

以上に示されることから、本研究は、以下の4つの研究課題の遂行を目的とした。(1)各国の事例研究と相互比較。(2)地域全体に関わる基軸的課題の考察。(3)中東地域政治の考察。(4)アラブ革命の展開過程に関する資料アーカイブ作成。

## 3. 研究の方法

本研究は、上記の目的で設定された4つの課題ごとに共同研究の体制を取り、各専門の地域・研究分野の研究者の参加により運営された。また、現地調査・海外専門家との意見交換・研究集会やワークショップによる議論の蓄積・文献資料と政治動向情報の収集などを研究の手段とした。

第一の課題「各国の事例研究と相互比較」においては、大きな政治変動の波に襲われた共和制諸国、変化の動きが抑えられた王制諸国ごと事例分析と比較研究が目指された。民衆運動の社会運動としての特質、背景となる社会政治経済要因、制度的改革の方向性、外交政策など中東地域政治への影響などについて各専門分野からの分析も目指された。

第二の課題「地域全体に関わる基軸的課題の考察」については、「民主化制度改革」、「イスラーム運動の展開」、「経済改革問題」、「ジ

エンダー問題」・「アラビア語メディア」などを検討し、相互連関的に分析することによって中東地域研究の方法論的な再検討を試みた。

第三の課題「中東地域政治の考察」については、オスロ和平から20年を迎えるパレスチナ問題の展開と、地域システムとしての中東政治の構造変動という二つの課題を扱った。後者では非アラブ国(とくにトルコ・イラン)と域外の列強との関係変化に関する構造分析が目指された。

第四の課題「アラブ革命の展開過程に関する資料アーカイブ作成」においては、関連文献・情報収集と蓄積のための文献学資料学的方法が試みられた。

#### 4. 研究成果

(1) アラブ革命の展開過程について、エジプト、モロッコ、バハレーン、イエメン、シリア、イラク、チュニジア、レバノンなど各国の事例の実証的研究を研究会や現地調査、外国人研究者の招聘・共同研究によって実施し、その成果を社会に公開・発信した。当初に予測した革命による政治改革の検証に加えて、内戦や混乱による難民の発生という新たな事態についての考察も行った。イラン革命や過去のアラブ諸国の革命との比較も考察した。

(2) 革命が明らかにした地域の基軸的な問題については、上記の各国の事例比較研究をもとに、民主化改革について新憲法の内容の検討などを中心に考察を進めたほか、軍部の政治的な役割、アラビア語メディアと政治言説などを研究会などを通じて検討した。また、革命とイスラームとの関係については既存の伝統的宗教権威の役割・イスラーム主義運動各派の多様な対応(ムスリム同胞団政権、過激派組織ISなど)、宗派主義の問題などを考察した。新たな研究課題としての難民問題の展開に関する考察

も行った。

(3) 中東地域政治の研究課題に関しては、パレスチナ問題についてアラブ革命後の中東和平プロセスの現状(二国家解決案の可能性)と、中東地域システムについては非アラブ国(とくにトルコ・イラン)と域外の列強によるシリア内戦などへの介入・干渉が宗派主義と結びついて展開している新しい状況の考察を行った。

以上の三つの研究課題を探求する中で、アラブ革命の中東近現代史への歴史的な位置づけの問題として、「革命」がこの地域における近代国民国家の形成・成熟・変容の契機となるとともに、既存の国家エリートによる上からの改革の対応・下からのイスラーム的社会秩序を求める動き・域外からの介入という三つの動きが「国のかたち」を決定づけるという歴史的な構造が今回の革命の展開過程を通じて確認された。

(4) 今後の研究の基盤整備に資するために、アラブ革命に関するアラビア語など文献資料の収集、政治動向の情報の系統的な収集・蓄積とそのアーカイブ化に向けた試作的なデータベース「アラブ革命政治動向データベース」の作成も行ったことも成果の一つである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計25件)

1. 白杵陽、グローバル・ジハードという名の妖怪、現代思想、査読無、44巻1号、2016、53-59、
2. 長澤榮治、“mustaqbal anzima ma ba’d al-isti‘mar fi al-watan al-‘arabi (The Future of Post-Colonial Regimes in the Arab World)” (アラビア語)、Idafat (Bulletin of the Arab Association of Sociology)、査読有、No. 31-32、2015、134-140、
3. 長澤榮治、“ta’ammulat hawla al-takhtit li-sinariyuhāt muhtamala fi al-sharq al-awsat (Some Reflections on Scenario Planning for the Middle East)” (アラビア語)、Mediterranean World、査読無、No. 22、2015、169-182、

4. 長澤榮治、革命から四年後のエジプト、小日本、査読無、23号、2015、16-18、
  5. 臼杵陽、「イスラム国」という名称、地域研究、査読無、15巻1号、2015、4-6、
  6. 臼杵陽、ダーイシュの戦略転換、地域研究、査読無、16巻1号、2015、4-6、
  7. 飯塚正人、「イスラム国」出現の背景-近現代イスラーム思想史から考える、世界平和研究、査読無、207号、2015、2-14、
  8. 長澤 榮治、アズハルと2011年エジプト革命、ODYSSEUS 地域文化研究紀要、査読無、別冊2、2015、59-84、
  9. 長澤 榮治、「7月3日体制」下のエジプト、石油・天然ガスレビュー、査読無、49巻2号、2015、1-16、
  10. 鈴木恵美、アラブの春の終焉か：エジプト革命後の現在、外交、査読無、28号、2014、30-35、
  11. 加藤博、岩崎えり奈、グローバル化とエジプト革命、社会学評論、査読有、65巻2号、2014、255-269、
  12. 加藤博、岩崎えり奈、エジプト革命のディレンマ、世界、査読無、855号、2014、232-241、
  13. 臼杵陽、変わるアラブ・イスラエル紛争、歴史と地理、査読無、674号、2014、1-13、
  14. 泉淳、米国と中東の政治変動－親米的権威主義政権の民主化に関する一視座、国際政治、査読有、175号、2014、15-27、
  15. 鈴木恵美、エジプト再民主化プロセスにみる「軍事共和制」の強化、国際問題、査読無、629号、2014、5-16、
  16. 長澤榮治、エジプトに彷徨う「ナセルの亡霊」－7月3日が突きつけた課題、世界、査読無、849号、2013、243-247、
  17. 長澤榮治、エジプト革命の課題－アラブ革命の展開の中で、現代思想、査読無、47巻17号、2013、190-195、
  18. 岩崎えり奈、エジプトの革命と貧困－モラル・エコノミーの観点から、神奈川大学評論、査読無、76号、2013、64-74、
  19. 長澤榮治、革命とセクハラ－エジプト映画「678」をめくって、地域研究、査読無、13巻2号、2013、399-404、
  20. 長澤榮治、アラブ革命と地域研究－特集「中東から変わる世界」を読んで、地域研究、査読無、13巻1号、2013、203-07、
  21. 長澤榮治、アラブ革命の構想力－グローバル化と社会運動－、歴史学研究、査読無、898号、2012、12-20、
  22. 岩崎えり奈、チュニジアの2011年11月制憲議会選挙と中央－地方関係、中東研究、査読無、515号、2012、45-55、
  23. USUKI, Akira, A Japanese Asianist's View of Islam: A Case Study of Ōkawa Shūmei、日本中東学会年報(AJAMES)、査読有、28巻2号、2012、59-84、
  24. 臼杵陽、アラブ革命の行方(特集 民衆運動の同時代性)、『ピープルズ・プラン』ピープルズ・プラン研究所、査読無、57号、2012、44-51、
  25. 飯塚正人、「アラブ革命」再考 - 2011年市民決起の真相、中東研究、査読無、514号、2012、14-20
- 〔学会発表〕(計13件)
1. 岩崎えり奈、チュニジアについて、上智大学イスラーム研究センター(SIAS)主催シンポジウム「アラブの春」から「イスラム国」へ－無秩序と混乱の広がる中東・北アフリカの現状」、2015年12月05日、上智大学(東京都千代田区)
  2. 飯塚正人、ISILはイスラームではないのか-近現代イスラーム思想史から考える、日本学術会議サイエンスカフェ(招待講演)、2015年07月24日、文部科学省(東京都千代田区)、
  3. 鈴木恵美、ムバーラク政権崩壊後にみる政治秩序形成、日本比較政治学会、2015年06月27日、上智大学(東京千代田区)、
  4. 飯塚正人、アラブ諸国におけるイスラーム主義運動の動向、日本イスラーム協会(招待講演)、2015年06月13日、東京大学文学部(東京都文京区)、
  5. 飯塚正人、「イスラム国」を産み出したもの-イラク戦争とシリア内戦、栃木県オリエント協会(招待講演)、2015年05月30日、栃木県立美術館(栃木県宇都宮市)、
  6. 長澤 榮治、"Thawra and Nation State System in the Arab World"、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所ペイルート中東研究日本センター年次セミナー、2015年03月19日、中東研究日本センター(レバノン、ペイルート)
  7. SUZUKI, Emi、Notable Politics and Parliament in Modern and Contemporary Egypt、The Third International Symposium of Inter-Asia Research Networks: Islamic and Chinese Studies and Inter-Asia Research Networks、2015年02月28日-2015年03月01日、東洋文庫(東京都文京区)
  8. 加藤博・岩崎えり奈、社会階層の流動化とエジプト革命、イスラーム地域研究拠点・共通研究課題「中東政治・経済の構造変動とイスラーム・アラブの役割」2014年度第5回研究会、2015年02月15日、早稲田大学(東京都新宿区)
  9. 長澤榮治、近代エジプトにおける革命の系譜～2011年革命への道、第30回日本中東学会公開講演会、2014年11月09日、東京大学(東京文京区)
  10. 長澤榮治、アラブ革命の時代、第36回「知の拠点セミナー」、2014年9月19日、京都大学東京オフィス(東京都港区)
  11. 岩崎えり奈、Revolution and Networks of Information in Egypt、一橋大学地中海研究会国際ワークショップ、2014年09月04日、ムハンマド5世大学社会経済研究所(モロッコ、ラバト)

12. 長澤榮治、Egypt in Revolution: Changing State-Society Relations、国際シンポジウム「エジプトの水と農業—SATREPSのアプローチ」(招待講演)、2013年03月18日、筑波大学(茨城県つくば市)
13. 飯塚正人、「アラブの春」とイスラーム復興、シンポジウム『「アラブの春」とイスラーム復興』(招待講演)、2012年10月08日、明治大学駿河台キャンパス(東京都千代田区)

〔図書〕(計16件)

1. 長澤榮治、「第5章 ナクバ以後を生きる—難民とパレスチナ問題」、『歴史としてのレジリエンス:戦争・独立・災害(災害対応の地域研究第4巻)』[川喜田敦子・西芳実(編)]、京都大学学術出版会、2016、368(178-219)
2. 鈴木恵美、「第4章 スィーサー政権の権威主義化にみるエジプト国軍の役割」、『途上国における軍・政治権力・市民社会:21世紀の「新しい」政軍関係』[酒井啓子(編)]、晃洋書房、2016、316(73-94)
3. 松本弘、「第6章 イエメン・ホーシー派の展開」、『途上国における軍・政治権力・市民社会:21世紀の「新しい」政軍関係』[酒井啓子(編)]、晃洋書房、2016、316(112-129)
4. 横田貴之、「第11章 エジプトにおける2つの「革命」と社会運動」、『途上国における軍・政治権力・市民社会:21世紀の「新しい」政軍関係』[酒井啓子(編)]、晃洋書房、2016、316(222-241)
5. 松本弘、アラブ諸国の民主化—2011年政変の課題—、山川出版社、2015、114
6. 松本弘(編)、中東・イスラーム諸国 民主化ハンドブック2014、NIHUイスラーム地域研究東京大学拠点、2015、328
7. 松本弘、「第3章 冷戦後の中東和平」、『現代の国際政治第3版』[長谷川雄一・金子芳樹(共編)]、ミネルヴァ書房、2014、430(236-261)
8. 鈴木恵美、エジプト革命—軍とムスリム同胞団、そして若者たち、中央公論新社、2013、270
9. 松本弘(編著)、現代アラブを知るための56章、明石書店、2013、313
10. 岩崎えり奈(加藤博との共著)、現代アラブ社会—「アラブの春」とエジプト革命、東洋経済新報社、2013、303(全頁)
11. 臼杵陽、世界史の中のパレスチナ問題(講談社現代新書2189)、講談社、2013、432
12. 長澤榮治、アラブ革命の遺産 エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム、平凡社、2012、606
13. 長澤榮治、「門戸開放期エジプトの国家と社会」『持続可能な福祉社会へ:公共性の視座から(第四巻アジア・中東)』[柳

沢悠・栗田禎子(共編)]、勁草書房、2012、292(239-68)

14. 鈴木恵美(編著)、現代エジプトを知るための60章、明石書店、2012、385
15. 鈴木恵美、「体制移行期における宗教政党の躍進—2011-12年人民議会選挙の考察」、『エジプト動乱—1.25革命の背景—』[伊能武次・土屋一樹(編)]、アジア経済研究所、2012、142(87-110)
16. 松本弘、「イエメンの民主化と部族—変化の中の伝統—」、『中東政治学』[酒井啓子編]、有斐閣、2012、292(67-80)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

「アラブ革命政治動向データベース」

<http://ricasdb2.ioc.u-tokyo.ac.jp/KakenhiArabRevolutions/>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

長澤 榮治 (NAGASAWA, Eiji)  
東京大学・東洋文化研究所・教授  
研究者番号: 00272493

### (2)研究分担者

鈴木 恵美 (SUZUKI, Emi)  
早稲田大学・地域・地域間研究機構・主任  
研究員  
研究者番号: 00535237

松本 弘 (MATSUMOTO, Hiroshi)  
大東文化大学・国際関係学部・教授  
研究者番号: 10407653

岩崎 えり奈 (IWASAKI, Erina)

上智大学・外国語学部・教授  
研究者番号：20436744

臼杵 陽 (USUKI, Akira)  
日本女子大学・文学部・教授  
研究者番号：40203525

飯塚 正人 (IIZUKA, Masato)  
東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化  
研究所・所長  
研究者番号：90242073

泉 淳 (IZUMI, Atsushi)  
東京国際大学・経済学部・教授  
研究者番号：70337476

(3)連携研究者

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI, Namie)  
東京大学・大学院総合文化研究科・特任准  
教授  
研究者番号：30584031

ダルウィッシュ ホサム (DARWISH,  
Hosam)  
アジア経済研究所・海外調査員  
研究者番号：60615235

錦田 愛子 (NISHIKIDA, Aiko)  
東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化  
研究所・准教授  
研究者番号：70451979

横田 貴之 (YOKOTA, Takayuki)  
明治大学・情報コミュニケーション学部・  
准教授  
研究者番号：60425048

石黒 大岳 (ISHIGURO, Hirotake)  
アジア経済研究所・地域研究センター・研  
究員  
研究者番号：30611636